

<様式1>

千 都 都 政 第 1 8 2 号
佐 企 第 7 7 号
企 第 1 0 7 号
令和 5年 5月 26日

(関東地方整備局長経由)
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

千 葉 市 長 神 谷 俊 一
(公印省略)

佐 倉 市 長 西 田 三 十 五
(公印省略)

八 千 代 市 長 服 部 友 則
(公印省略)

「かわまちづくり」計画の登録について (申請)

「かわまちづくり」支援制度実施要綱第7の規定に基づき、下記のかわまちづくり計画について申請いたします。

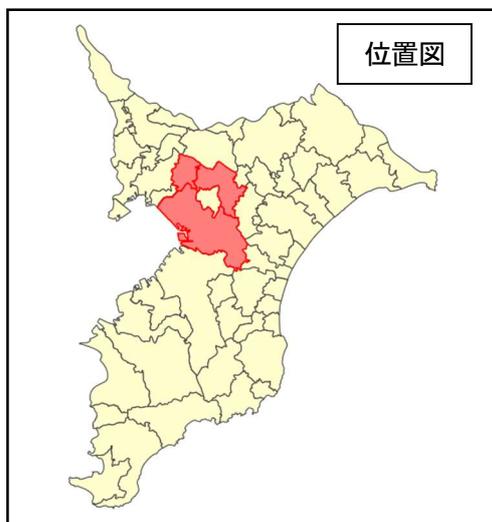
記

計画名：印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画

市町及び河川の概要

1. 市町村等の概要

- ①都道府県名 千葉県
 ②市区町村名 千葉市、佐倉市、八千代市



- ③人口 千葉市 978,829 人 (令和 5 年 5 月 1 日現在)
 佐倉市 170,889 人 (令和 5 年 4 月 30 日現在)
 八千代市 205,081 人 (令和 5 年 4 月 30 日現在)

- ④面積 千葉市 271.76 km²
 佐倉市 103.69 km²
 八千代市 51.39 km²

⑤市町の特徴

【千葉市】

千葉市は、東京湾の湾奥部に面し、千葉県のほぼ中央部、東京都心部から東に約 40 km に位置する。成田国際空港及び木更津市（東京湾アクアラインの接岸地）からそれぞれ約 30 km の距離にあり、鉄道や幹線道路の結節点として、県内交通の要衝となっている。

地形は、花見川や都川、鹿島川などの河川によって刻まれた低地と台地、東京湾沿いに広がる埋立地に大別される。全体的に平坦な地形のため、都市の成長とともに市街化が進んだが、内陸部には緑豊かな自然環境が残されており、また延長約 42 km に及ぶ海岸線や 13 の河川を擁するなど、大都市でありながら緑と水辺に恵まれていることが特長である。

【佐倉市】

佐倉市は、千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、東京都心部から約 40 km、成田国際空港から約 15 km、千葉市中心部から約 20 km の距離にある。市の面積は約 104 km² であり、北部は印旛沼に川が注ぎ、西部は首都圏のベッドタウン、東部・南部は農村地帯が広がる中、工業団地が立地し、緑豊かな自然と都市の利便性をともに享受できるまちである。

江戸時代は城下町、明治期以降は連隊の町として栄え、昭和 29 年 3 月に佐倉市となって以降、高度経済成長期に鉄道沿線を中心に住宅開発が進み、人口が増加したが、平成 23 年度（約 17 万 8 千人）をピークに減少し、令和 5 年 4 月末時点で約 17 万 1 千人となっている。

地形は、印旛沼の南に広がる傾斜地と、北から南へ向かうほど徐々に高くなる標高 30m 前後の台地からなっており、その間を鹿島川や高崎川などが流れ、印旛沼に注いでいる。また、印旛沼周辺や佐倉城址周辺、東部および南部の農村地帯などには豊かな自然が残っている。

鉄道は、京成電鉄本線、JR 総武本線・成田線が市の東西を貫き、東京都心部までおよそ 60 分、成田国際空港と千葉中心部へはそれぞれ 20 分でアクセスできる。また、市内には新交通システム（ユーカリが丘線）が運行し、バス路線とともに各駅と住宅地を結ぶ市民の足となっている。一方、道路は、

市の南部に東関東自動車道と国道 51 号が走り、それぞれ東京と成田を結ぶほか、国道 296 号が市を東西に横断する主要道路となっている。

【八千代市】

八千代市は、千葉県北西部に位置し、東京都心部から約 31km、千葉市中心部から約 13km、成田国際空港から約 26km に位置している。

八千代市の市域は、標高 5~30m のなだらかな起伏が続く台地が広がり、市域の中央を南北に貫くように新川（印旛放水路）が流れている。低地を流れる新川、神崎川、桑納川といった河川の周辺には水田や斜面緑地が広がり、豊かな田園風景をつくっている。

道路は、国道 16 号が南北を、国道 296 号が東西を貫き、鉄道では、南部を京成本線が、ほぼ中央を東葉高速線が東西に横断している。

市域のほぼ中央を縦断する新川は、市民の憩いの場となっており、休日には周辺に立地する道の駅やちよ（八千代ふるさとステーション・やちよ農業交流センター）、八千代市立中央図書館、八千代市市民ギャラリー、八千代市総合グラウンドなどに多くの方が訪れている。

市域の南部には、京成本線を中心に既成市街地が広がり、市域中央部には東葉高速線を中心に新市街地が広がる。また、北部には、水田や畑、樹林地が広がり、多くの自然環境が残されている。

2. 市内の河川の概要

① 主な河川



【印旛沼（西印旛沼、北印旛沼）】（一級河川利根川水系 流域面積 541.1 km²）

印旛沼は、千葉県の北西部に位置し、西印旛沼と北印旛沼からなる。かつては1つにつながった沼であったが「印旛沼開発事業」で分離され、現在は印旛捷水路によって結ばれている。主な流入河川に、鹿島川、師戸川、手繰川、神崎川、桑納川、印旛放水路があるが、出水時に印旛沼に流入する洪水は、長門川流末の印旛排水機場によって利根川へ、印旛放水路の大和田排水機場により東京湾へそれぞれポンプにより排水する。

流域面積は約 541km²で、千葉県の面積の約 10%に相当する。流域人口は約 79.4 万人で、千葉県総人口の約 13%を占めている（令和 2 年度）。

印旛沼は、水資源に乏しい千葉県にとって貴重な水がめであり、工業用水や農業用水、上水道用水として利用されている他、台地・斜面林に囲まれた良好な里山景観を形成しており、また、多くの生物のすみかともなっている。

【印旛放水路（新川・花見川）】（一級河川利根川水系 流域面積 169.7 km² 流路延長(指定延長)21.8km）

印旛放水路は、西印旛沼から八千代市村上地先の大和田排水機場を経て、千葉市美浜区の東京湾までの一級河川である。印旛放水路のほぼ中央にあたる八千代市村上地先の大和田排水機場より上流を新川と呼び、下流は花見川と呼ばれている。かつては新川と花見川はつながっていなかったが、昭和 38 年に印旛沼開発事業が発足し、水資源開発公団がこの放水路の開削工事を実施し、昭和 44 年の完成と同時に一級河川指定がなされ、現在に至っている。大和田排水機場を境として河川の性格形状は大きく異なり、平常時には、これより上流の新川は沼へ注ぐ貴重な水源となっている。またこれより下流の花見川はその流域の水を集め、東京湾に注いでいるが、洪水時にはポンプ運転（最大 120 m³/s）により、新川の洪水を東京湾へ強制排水することにより沼の水位調節が行われている。

中流部は都市部に近接していながらも良好な自然景観が保全され、野鳥や淡水魚の生育の場となっていることから、市民の格好の散策の場となって親しまれている。

※「印旛」という漢字は、和銅 6 年（713 年）に筆録された「常陸国風土記」の中で「印波」と記されたのが最古といわれている。印旛沼は、縄文・弥生時代には太平洋に面した内湾の中にある小さな入り江の一つであったが、流域河川が運んでくる土砂等の堆積などで徐々に湖沼化していったといわれている。

印旛沼周辺は、かねてから鬼怒川の出水により多大な被害を受けていたが、江戸初期に利根川の流れを銚子の方向に向かわせようとする「利根川東遷事業」が行われ、これによって利根川の水が印旛沼に逆流し、被害に拍車をかけるようになった。このため江戸期に洪水対策と新田開発などを目的として大規模な工事が約 60 年置きに 3 回行われた。また、明治期以降も度々工事が行われてきたが、今日のような印旛沼の姿になったのは、終戦直後の国の食糧増産計画によって大規模な印旛沼干拓事業が進められ、昭和 44 年（1969 年）に完了してからである。

②河川と市町や民間事業者との関わり

印旛沼は、工業用水や農業用水、上水道水の貴重な水源としてのみならず、水産、レジャー、親水、そして観光などに利用され、なかでも、水源としての印旛沼は、千葉県民の“命”はもとより、千葉県の経済を支える重要な水がめである。

印旛沼に河川や流域から流入する水量は、年によって変動がみられるが、最近 5 ヶ年（平成 29～令和 3 年）の年平均では 4 億 9,311 万 t である。また、沼水位低下時の利根川からの揚水量は、最近 5 ヶ年（平成 29～令和 3 年）の年平均では 1,400 万 t である。したがって両方を合わせた印旛沼の水量は、5 億 711 万 t になる。このうち、工業用水として 1 億 3,873 万 t（流入水量の 27.4%）、農業用水として 5,276 万 t（10.4%）、上水道用水として 3,441 万 t（6.8%）の計 2 億 2,590 万 t（44.5%）が利用され、利水以外の自流 2 億 8,121 万 t（55.5%）は、自然放流（約 78%）と強制放流（約 22%）により、利根川と東京湾へ排水される。^{*1}

工業用水については、JFE スチールや石油化学工場など京葉臨海工業地帯の工業地帯に給水されている。農業用水については、印旛沼土地改良区の受益農地など印旛地域の多くの水田に給水されている。ま

た、上水道用水については、市川市、浦安市、千葉市、船橋市、習志野市、市原市、佐倉市、八街市、富里市、四街道市、酒々井町の全域あるいは一部区域に給水されている。なお、給水される 11 市町の総人口（≠給水人口）は県総人口の約 2 分の 1 に相当する。

水産面では、内水面漁業が行われ、コイ、フナ、モツゴなどを対象とした定置網の一種である「張網」漁法や、ボサ漁と呼ばれる木の束や網を水中に沈め、魚がすみかにした頃に引き上げる漁法が用いられている。

また、レジャー、観光面では、魚釣りやサイクリング、各種イベントなどで年間を通して利用され、親しまれている。流域市町の総合計画や都市計画マスタープランでは、印旛沼の水質浄化や憩いの場・親水空間の確保、および里沼環境を活かした交流促進等の方針が位置づけられている。

印旛放水路は、台風などの大雨による印旛沼の洪水を防ぐため、大和田機場を運転し、印旛放水路（花見川）から東京湾へ排水する治水上の重要な役割を担っている。また、農業用水として印旛沼土地改良区等への取水が行われており、農業を支える重要な水がめとなっている。

河川沿いには良好な自然が残されており、レジャー、観光面では、魚釣りやサイクリング、各種イベントなどで日常的に利用され、親しまれている。

印旛放水路下流部の花見川は、千葉市花見川区の名称にもなるなど、花見川区のシンボルとなる地域資源である。

*1 独立行政法人 水資源機構 千葉用水総合管理所のデータ

③これまで実施済みの関連施策（河川名、箇所、実施年度、特色）

■印旛沼流域水循環健全化会議（平成 13 年度～）

千葉県では、平成 13 年度に、印旛沼流域が抱える多くの課題（水質、生態系、治水等）を解決するため、関係者（市民団体、学識者、利水者、行政等）で構成される「印旛沼流域水循環健全化会議（通称：健全化会議）」を設立した。

平成 22 年度には、印旛沼・流域再生の理念や目標を掲げたマスタープランである「印旛沼流域水循環健全化計画」を策定し、健全化計画に基づき、おおむね 5 ヶ年を期間として具体的な対策を定めた行動計画により各取組を推進している。現在は令和 3 年度から 7 年度までを計画期間とする、第 3 期行動計画により、流域治水部会、水環境部会及び水辺活用・連携部会を設置し以下のとおり総合的な取組を実践している。

<実施中の取組>

流域治水部会…雨水の貯留・浸透施設の普及、湧水・地下水の保全・緑化の推進、外来種の駆除など
水環境部会…水辺エコトーンの保全・再生、水草の保全・活用など
水辺活用・連携部会…水辺を中心とした流域の賑わいの創出、印旛沼学習の推進、広報など

■印旛沼広域河川改修事業（平成 16 年度～）

千葉県では、1 時間当たり 50mm 程度の降雨に対応した河川整備を進めており、印旛沼の周囲堤約 L=30km の築堤を実施している。なお、この事業は、「社会資本総合整備計画（水の安全・安心基盤整備）」、及び印旛沼流域水循環健全化計画第 3 期行動計画に位置付けられている。

■印旛沼自転車道（県道八千代印旛栄自転車道線）整備（昭和 60 年度～）

印旛沼および流入河川の沿川には自転車道が整備され、平成 26 年 4 月現在、起点の県道八千代宗像線の阿宗橋から終点の国道 356 号のふじみ橋までの約 27 kmのうち、起点から栄町の酒直水門までの約 22 km が整備され、印旛沼およびその周辺の自然を楽しむことができる。

■佐倉ふるさと広場整備（昭和 62 年度～平成 6 年度）

佐倉市は、古くからオランダとの交流が深く、「日新の医学、佐倉の林中より生ず」といわれるほど佐倉藩の蘭医学は全国に知られた。このような経緯から昭和 62 年度に佐倉日蘭協会が設立され、国際交流の場としてこの「佐倉ふるさと広場」が整備された。平成元年には日蘭修好 380 周年を記念してこの佐倉ふるさと広場にチューリップを植える「チューリップまつり」が開催されるようになり、平成 6 年度には佐倉市の市制 40 周年を記念してオランダ風車「リーフデ」が建設された。この風車は、日本では初となる水汲み風車で、メカニズム部分をオランダで製造し、オランダの技師により建設された本格的なもので

れ兼用工作物協定を結び一般利用を促している。そのため沿川では、一般に利用できる自然を感じることができる空間として、日常的にウォーキング、ハイキング、サイクリングなどの利用が盛んである。なお、現在未整備となっている酒直水門から利根川へ続く（一）長門川沿川では現在河川整備を行っていることから、整備完了後、自転車道の整備計画を行うこととしている。

また、西印旛沼の佐倉市臼井田地先に位置する「佐倉ふるさと広場」では、春のチューリップ、夏のひまわり、秋のコスモスなどの「佐倉フラワーフェスタ」が開催され、多くの人に利用されている他、当該広場を拠点として、4月～10月の期間で「観光船」が運航されている。そのほか、西印旛沼周辺では、オランダ風車、田園風景を走るコースで、毎年1万人以上の参加者が参加する「佐倉朝日健康マラソン（現：佐倉マラソン）」や、湖畔での「佐倉市民花火大会」が開催されている。令和2年度には、佐倉市観光協会等の民間事業者等と連携した水辺におけるキッチンカーの出店や、カヤック体験等の水辺の活用に係る社会実験を実施してきたほか、令和3年度には水辺を活かしたイベントとして「印旛沼ダンボールイカダCUP」が新たに開催された。

佐倉ふるさと広場周辺では、例年10月に市内事業者・市民・NPOが連携した清掃活動、「印旛沼クリーンウォーク」を行っている。印旛沼周辺での清掃活動を通じ、印旛沼の豊かな自然環境の保全と水質の浄化について広く周知を図っている。環境保全に関する活動やイベントが活発である。

両沼沿いには、6次産業施設「マルシェ・かしま」（西印旛沼）や「北須賀直売所まこも」（北印旛沼）などの商業施設があり、観光客や地元客に利用されている。



サイクリングロード



佐倉の観光船

新川（印旛放水路）は、そのおよそ10kmにおよぶ区間の両岸に、約1,300本を擁する千本桜の名所であり、八千代市総合グラウンドや新川遊歩道を利用した「ニューリバーロードレース in 八千代」が毎年12月に開催されている。また、周辺では市の3大祭として、直径2メートルの大鍋で作られる「源右衛門鍋」が振る舞われる「源右衛門祭」、花火の打ち上げなどが行われる「八千代ふるさと親子祭」、八千代の産業をPRする「八千代どーんと祭」が開催されている。さらに、ミズベリング八千代や商工会議所青年部により開催される「新川だヨ！全員集合」は、小中学校と連携した新川がテーマの作品展示、SUPボート体験、こどもフリマ、スタンプラリーなどが実施され、水辺に親しめるイベントとして根付いている。

新川と国道16号が交差する八千代橋周辺では、「道の駅やちよ（八千代ふるさとステーション・やちよ農業交流センター）」があり、野菜等の農産物の直売や「いちごフェア」「八千代新川千本桜まつり」などの施設イベントが定期的に行われ、多くの観光客が訪れている。



新川千本桜



源右衛門祭

花見川（印旛放水路）の川沿いは、雑木林、竹林、アシ、ススキ等の植生に恵まれ、市内でも有数の野鳥の生息地となっていることに加え、桜並木が点在し、河川の景観を彩っている。また、花見川沿いの核となる公園群をネットワーク化するため、河川管理者との管理協定の締結により、稲毛海浜公園 検見川地区から横戸町（弁天橋）までの全長約12.8kmを「花見川サイクリングコース」として供用しており、日常的にウォーキング、ランニング、サイクリングなどに利用されている。

令和元年度より、千葉市花島公園お花見広場付近において、民間任意団体ミズベリング花見川と市が連携して、カヤック体験やデイキャンプ体験等の水辺を活用したアクティビティの社会実験を継続的に実施し、利用者より好評を得ており、周辺地域を含め市内外利用者が訪れ、広く認知されつつある。



花島公園お花見広場



花見川（印旛放水路）カヤック体験

水辺とまちづくりに関する基本方針

1. 都市計画や公園計画など市町村の地域計画の中での河川の位置づけ

【印旛沼流域水循環健全化計画】

印旛沼流域水循環健全化計画は、印旛沼に関わる地域住民、市民団体、企業、学校、水利用者、行政（流域市町・県・国）をはじめとするあらゆる関係者が、治水・利水・水質・生態系・親水等が適切なバランスを取ってともに確保される状態を目指して、様々な取組や役割分担を明確にしたものであり、計画の目標達成によって、印旛沼の水質改善、自然環境の保全・再生とともに、地域の活性化を目指している。

健全化計画は2030年（令和12年）度を目標年次とするマスタープランであり、これまで「第1期行動計画（平成21～27年度）」「第2期行動計画（平成28～令和2年度）」で各取組を推進しており、令和3年度から令和7年度にかけて「第3期行動計画」を推進している。

第3期行動計画では、「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来をつなぎ」を取組理念として、「流域治水」「水環境」「水辺活用」「学び」「広報」の対策群を健全化会議が推進力となって取組んでいく推進対策と位置づけ、連携の強化や専門的知見からの支援等を受け、実施していくこととしている。水辺活用の推進対策としては、印旛沼へのアクセス向上、周辺の地域資産や整備した水辺拠点の活用を含め、流域全体の水辺の利活用方策を検討・実施することを第3期における取組として掲げている。

水辺の利活用に関しては、関係機関や利用者、事業者と連携を図りながら、拠点間のネットワーク化、周辺の地域資源とのネットワーク化を促進するとともに、流域を含めた水辺を活用した各種イベントや河川のオープン化制度等を活用した企業誘致等、印旛沼・流域の水辺の魅力を伝える取組を推進し、アクセス性の向上、周辺の地域資産や整備した水辺拠点の活用を含めた拠点整備を進め、整備した拠点の活用も含め、流域全体の水辺の利活用方策を検討・実施することとしている。

【千葉市】

千葉市は、東京湾の水辺に長く接しているとともに、後背地には下総台地の豊かな緑に囲まれるなど、首都圏に位置しながらも、緑と水辺に恵まれており、これらの潤いのある緑と水辺のある都市生活を末永く営みたいという願いを実現するため、昭和59年に「緑と水辺の都市宣言」を行っている。

千葉市の総合計画である千葉市基本計画（令和5年度～令和14年度）において、都市構造の将来像を構成する1つとして「みどり（緑と水辺）」を掲げ、「花見川」「都川」「鹿島川」の川辺を、人と水辺と緑をつなぐ軸として位置付け、自然と人が共生する持続可能な潤いのある都市構造の形成を目指すこととしている。

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の3プランを統合した「ちば・まち・ビジョン（令和5年度策定予定）」において、緑と水辺の豊かな都市づくり・まちづくりの目標の1つに「河川沿いの空間の利活用を促進し、河川とまちがより密接につながることで、新たな賑わいや活力が生まれるまちを目指す。」ことを掲げるとともに、都市を構成する要所（ツボ）となる9つのエリアを設定し、その1つに「花見川沿川エリア」を位置付け、当該エリアの将来像を「流れるまちの個性を活かした空間づくり」としている。

「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023」において、「河川を活用したまちづくりの推進」を重要視することの1つとして掲げ、地域固有の資源である河川の良さを体験・実感できるよう、川の水にふれ合いながら自然環境の良さを再認識できるようなアクティビティの充実に取組むこととしている。

【佐倉市】

「第5次佐倉市総合計画（令和元年12月）」において、「印旛沼については、県や流域市町などと連携して水質改善に取り組むとともに、多様な生物の生息地や、市民の憩いの場としての水辺の保全に努めます」とされ、「印旛沼周辺地域がサイクル・フラワー・グリーンツーリズムなどニューツーリズムの拠点となるよう、新たな観光スタイルの提示や周辺施設の連携、駐車場等の整備を進めます。また、年間を通じて観光客が訪れるよう、閑散期における集客対策を行います」としている。

「佐倉市都市マスタープラン（令和3年5月）」において、印旛沼周辺は、「印旛沼の地域資源としての魅力を一層高めるため、県や流域自治体、関係機関との連携及び市民との協働により、印旛沼の水質の改善や周辺環境の保全に取り組む」地域とされ、「佐倉ふるさと広場は、親水施設の整備や拡張を進めるとともに、佐倉草ぶえの丘や印旛沼サンセットヒルズとの回遊性を高めつつ、京成臼井駅や京成佐倉駅、JR佐倉駅、旧城下町地区とのアクセスの向上など、交流拠点としての機能強化について検討します。」としている。

「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）」の基本目標の中で、「観光客の増加と地元消費につながる産業施策」の取組として、印旛沼周辺地域の新たな観光スタイルの提示や周辺施設の連携、駐車場の整備を進めるほか、ターゲットに合ったモデルコースや体験プログラム等の商品を造成するなど、消費や回遊性につながる仕組みを構築することを掲げている。

また、佐倉市では、都市構造再編集中支援事業を活用し、「佐倉ふるさと広場」において、年間を通して集客が図れるよう、花（年間を通して楽しめるガーデン）、農業、環境をテーマに「見る」「食べる」「体験する」機能を備えた、印旛沼周辺の豊かな自然と水辺を活かした観光拠点となる公園や、飲食施設や交流スペース等を備えた観光交流施設等を整備し、水辺を楽しむための水辺遊歩道及び水上デッキの整備等を行うことにより水辺空間と一体的に利活用を図るほか、臼井駅周辺などから水辺空間へのアクセス向上のため、駐車場の整備や周辺道路の整備、電動モビリティの導入を計画している。

【八千代市】

「八千代市第5次総合計画前期基本計画（令和3年3月）」において、先導的な役割を担うリーディングプロジェクトの1つとして「豊かな自然環境の保全と活用」が掲げられており、「新川及びその周辺を一体的に活用し、本市の重要な観光資源として市内外から気軽に訪れることができるようなまちづくりの推進」が位置付けられている。

「八千代市都市マスタープラン（令和5年度策定予定）」において、「新川や桑納川周辺の水と緑の空間の貴重な自然を保全・活用し、次代に引き継いでいく軸線をふれあいネットワーク軸として位置づけ、多様な主体と連携・協働しながら、本市南北を結ぶ主要なグリーンインフラとして保全・活用を図る」ことが位置付けられる見込みである。

「第2期八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年3月）」において、基本目標の1つである「八千代の魅力を創出し、新しい人の流れをつくる」の中で、「新川千本桜などの活用を図り、シティプロモーションを推進」することが掲げられている。

上述のとおり、上位計画（総合計画、都市計画マスタープラン）において、印旛沼・印旛放水路及びその周辺の里山などについては、良好な景観や生物の生息場として保全されるとともに、住民の憩いの場として活用に努めることが位置付けられている。

2. 基本方針

（1）現状課題など

印旛沼及びその流域には、東京都心部や成田国際空港から近距離にありながら、貴重な里沼環境（水辺＋里山）が残されており、周辺には数多くの歴史・文化資産が点在している。また東京湾と利根川を結ぶサイクリングロードの一部として、約22kmにわたって自転車道が整備されており、マラソン大会やウォーキングイベントが開催されるなど、スポーツ活動が盛んである。近年ではサイクリング等のアクティビティやグリーンツーリズムなどの着地型観光が定着してきている。

一方で、印旛沼は全国湖沼水質ワースト1になるなど汚いネガティブなイメージがある。また、自転車道はあるものの水面が見えない区間もあり、休憩できるポイントや水辺に近づける場所が少ないほか、公共交通機関が少なく鉄道駅からの距離があり、周辺に駐車場が無く、水辺へのアクセスが悪いこと等により、水辺環境を十分には活かしきれていない面がある。

そういった課題を解決し、印旛沼流域の総合的な利活用を推進するため、平成26年度に『印旛沼流域かわまちづくり計画』を策定し、親水施設や休憩施設を有する水辺拠点や、一里塚（ミニ拠点）のハード整備を行い、またそれら拠点を既存のサイクリングロードなどのネットワークで周辺里山の自然環境、歴史・文化、地元農産物等の地域資源と結んでいくことで、『水と地域のネットワークづくり』を推進させてきた。

『印旛沼流域かわまちづくり計画』では主に印旛沼沿川における水辺拠点や、一里塚（ミニ拠点）のハード整備を進めてきたが、印旛沼に接続する印旛放水路においても、管理用通路を遊歩道やサイクリングロードとして兼用されており、『印旛沼流域かわまちづくり計画』で進めてきた『水と地域のネットワークづくり』を印旛放水路沿川まで拡大させることで、一層印旛沼・印旛放水路沿川のかわまち空間において回遊性の向上を図ることができる。

(2) 計画対象範囲

既往計画では、主に印旛沼湖畔を中心として、水辺拠点や一里塚の整備を進めてきた。印旛沼では、『印旛沼流域水循環健全化会議』のもと、流域全体での水辺活用推進を目標としており、印旛沼の流入河川である印旛放水路沿川に新たに水辺拠点を配置することで、印旛沼から東京湾までのネットワークの拡大を図り、広域的連携の強化が見込まれることから計画範囲を下記のとおり設定する。

計画対象河川：(一) 利根川水系 印旛沼（西印旛沼）

(一) 利根川水系 印旛放水路（新川・花見川）

計画対象区間：東京湾（千葉市美浜区磯辺地先）～佐倉ふるさと広場周辺



(3) 基本方針 ハード・ソフト施策

上述の上位計画及び課題等を踏まえ、関係機関や利用者、事業者と連携を図りながら、水辺及び周辺里山の自然環境、景観、歴史・文化、地元農産物・水産物等の地域資源を沿川ネットワークで結び、サイクリングやウォーキング等のアクティビティを組み合わせた水辺を活用した取組を推進するとともに、水辺を活用した各種イベントや河川のオープン化制度等を活用した企業誘致等により、印旛沼・印旛放水路の水辺の魅力を向上させ、にぎわいを創出する。

これらに必要となる以下のハード整備及びソフト施策を実施する。

① 流域のブランド力の強化（ソフト施策）

個人及び市民団体、企業等の関係者と連携し、総合的なソフト施策を展開する。

- (i) 既存利活用プログラム・イベントとの連携及び活用
- (ii) 新規利活用プログラム・イベントの開発
- (iii) 情報発信の強化・充実
- (iv) 印旛沼・印旛放水路沿川の魅力を強化、ブランド力の強化

② 利用基盤の充実（ハード整備）

印旛沼及び印旛放水路における親水性、休憩機能を持たせる水辺拠点整備、アクセス向上やネットワーク利用の推進のための駐輪施設、案内看板等の整備、河川空間に接続するまち空間の整備等を実施する。

- (i) 水辺拠点整備（親水護岸整備、休憩施設）
- (ii) 駐輪施設、案内看板整備
- (iii) まち空間整備（佐倉ふるさと広場の拡張整備、県立八千代広域公園の親水空間整備、花島公園の施設拡充など）

(4) 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

【各推進主体における地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標】

推進主体	定量的目標とする内容	目標値	
		整備前	整備後
千葉市	カヤック体験等水辺のアクティビティに係る取り組みへの参加人数の増加	48人	60人
	花見川団地商店街と連携したイベントの実施回数増加	3回	3回以上
	花島公園利用者数の増加(年間)	254,047人	300,000人
佐倉市	佐倉ふるさと広場の入込客数の増加(年間)	262,349人	470,000人
	観光船の乗船人数の増加(年間)	1,472人	2,200人
八千代市	水辺拠点を活用したイベント参加人数の増加(年間)	0人	5,000人

ソフト施策の個別施策計画書

<p>1. 河川名</p>
<p>利根川水系 印旛沼、印旛放水路</p>
<p>2. 施策の実施範囲</p>
<p>印旛沼・印旛放水路沿川（千葉市、佐倉市、八千代市）</p>
<p>3. 施策概要</p>
<p>前掲した基本方針に基づき、以下のソフト施策を行う。</p> <p>(1) 既存利活用プログラム・イベントとの連携及び活用</p> <p>①水辺を活用したアクティビティ・イベントの開催</p> <p>佐倉マラソンやニューリバーロードレース in 八千代といったマラソン大会等のイベントにおいて、参加者に対し印旛沼・印旛放水路かわまちづくりのチラシや印旛沼・印旛放水路沿川のパンフレットを配布し、効果的な広報を実施する。また、ウォークイベントを主催する鉄道事業者等と連携し、印旛沼・印旛放水路をフィールドとしたアクティビティ・イベントを開催する。</p> <p>花見川区民祭や花見川団地マルシェ等と合わせて、花見川カヤック体験等の水辺を活用したアクティビティ・イベントを開催し、相互PRの実施で効果的に広報すると共に、各会場をつなぎ地域の回遊性やエリア一体の魅力向上を図る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="268 813 740 1146">  </div> <div data-bbox="874 819 1370 1146">  </div> </div> <p>はなみがわ団地商店街プチマルシェ・ 花見川カヤック連携イベント</p> <p>②沿川の四季を感じられるイベントとの連携</p> <p>四季を感じられる沿川のイベントとして、佐倉ふるさと広場で開催される、チューリップフェスタやコスモスフェスタのほか、桜の開花時期に、佐倉城址公園をはじめとした「桜に染まるまち佐倉」、新川の「八千代新川千本桜まつり」、花見川沿川の「花島公園お花見広場」や「花見川千本桜緑地」といったお花見スポットにおいて同時期に開催されるイベントにおいて、パンフレット配布による連携やHP掲載等での周知により相互交流を図るほか、近隣の文化・スポーツ施設や飲食店などの地域資源を生かしたスタンプラリーの同時開催やシェアサイクルの利用促進キャンペーンなどを行うなど、イベントをきっかけとして水辺空間からまち空間への回遊を促す取り組みとの連携を図る。</p> <p>佐倉ふるさと広場の船着き場より、観光船の運行（舟運）を4月から10月の期間、佐倉市観光協会に委託して運航している。舟運については、今後も周辺の水辺拠点や、佐倉地区（高崎川など）との連携を検討するほか、これまでの「かわまちづくり計画」で整備してきた一里塚等においても機能強化を図るなど、舟運との連携を促す取り組みにより、印旛沼周辺における活性化を促進する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="268 1753 679 2022">  </div> <div data-bbox="874 1753 1286 2022">  </div> </div> <p>佐倉チューリップフェスタ</p> <p>八千代新川千本桜ライトアップ</p>

(2) 新規利活用プログラム・イベントの開発

①民間企業と連携したアクティビティ・イベントの開発

佐倉ふるさと広場付近（西印旛沼水辺拠点）では、佐倉市観光協会等の民間事業者等と連携した水辺活用の社会実験として令和2年度から水辺におけるキッチンカーの出店や、水辺に親しむカヤック体験等を実施しているほか、水辺を活かした民間イベントとして、「印旛沼ダンボールイカダCUP」が令和3年度から開催されている。今後も、民間事業者等と連携したアクティビティ・イベントを実施し、更なる水辺の利活用を図る。

花見川（印旛放水路）の利活用を図るため、令和元年度から、民間任意団体ミズベリング花見川との連携を開始し、花島公園お花見広場付近にて、カヤック体験やデイキャンプ体験等の水辺を活用したアクティビティの社会実験を実施している。令和5年度以降は、周辺地域を含め市内外利用者が訪れていることを踏まえ、周辺住民にも市内でも数少ない河川沿いの良好な自然環境に親しめる場としてのメリットを感じてもらえるよう、従来の花見川カヤック体験に加え、将来的な民間活力の導入を視野に入れ、花見川と花島公園の一体的な利活用を図るため対象範囲を拡大してイベント等を開催するなどの社会実験を実施する。

新川水辺拠点の道の駅やちよ及び県立八千代広域公園を中心に、民間任意団体ミズベリング八千代などによる水辺に親しむアクティビティの実施など、新川（印旛放水路）の利活用を図る。また、自然環境団体と連携した体験プログラムやアクティビティの実施など、谷津・里山等流域の環境保全を図る。



佐倉ふるさと広場カヤック体験



花島公園お花見広場 デイキャンプ体験

②広域展開イベントの開発

印旛沼及び印旛放水路沿川の自治体と民間事業者等が連携した取り組みとして、千葉市・八千代市・佐倉市が連携し、広域的な水辺利活用や魅力創造につながる合同イベントを開催する。

印旛沼及び印旛放水路沿川の水辺拠点を沿川のサイクリングロードや循環バスでネットワーク化させ、複数会場での水辺アクティビティの体験やグルメ・物販・展示などを行うことで、広域的かつ大規模なかわまち空間のPRを行い、沿川全体の魅力向上、地域活性化を図る。

(3) 情報発信の強化・充実

①アクティビティ・コースマップの充実

大学生、サイクリスト等が作成したサイクリングマップ（散走マップ）をもとに、民間企業とも連携して、沿川エリアの活動や魅力を詰め込んだ魅力発見マップを作成し、各水辺拠点や周辺飲食店、公共施設、鉄道駅などで配布するほか、各市ホームページ上に掲載する。

②広報に関する民間事業者等との連携強化

千葉県内を中心に地域振興事業を手掛ける株式会社みなもをはじめ、鉄道事業者や自転車関連企業など、民間企業等との連携強化を図り、広報誌、チラシ、マップなどを各水辺拠点や沿川の飲食店、公共施設、鉄道駅などで配布するほか、各市ホームページにて掲載する。

(4) 印旛沼・印旛放水路沿川の魅力・ブランド力の強化

①景観のブラッシュアップ

水辺空間の眺望を確保するため、河川管理者と連携し河川区域の草木の適正管理を図ると共に、印旛沼連携プログラム等を活用し、住民や市民団体、企業等の関係者と連携した清掃等により、景観のブラッシュアップを図る。



西印旛沼における一斉清掃の様子（佐倉市HPより）



印旛沼クリーンハイキングの様子

②共通サイン・案内看板の設置

印旛沼・印旛放水路沿川の各拠点間の移動を促し、連続的・一体的な魅力向上を図るため、河川管理者である千葉県と沿川の千葉市、佐倉市、八千代市の連携により、沿川に共通のサインや案内看板の設置をすすめ、沿川ネットワークを活用した一連のかわまち空間の創出を図る。

③沿川パブリック空間の利活用

河川敷地占用許可準則の特例の活用による、将来的な民間活力の導入などを見据え、キッチンカーの出店による賑わいの創出など、河川空間と公園・緑地・広場等との一体的な沿川パブリック空間の利活用を推進する。

印旛沼流域・印旛放水路沿川で開催されているイベント

イベント・行事	実施主体	実施場所	実施時期	備考
八千代新川千本桜まつり	八千代新川千本桜まつり実行委員会	やちよ農業交流センター	3月上旬	
佐倉マラソン	佐倉マラソン実行委員会	岩名運動公園～西印旛沼湖畔など	3月下旬	
佐倉城址の「さくら」	佐倉市・佐倉市観光協会	佐倉城址公園	3月下旬～4月上旬	
佐倉チューリップフェスタ	佐倉市・佐倉市観光協会	佐倉ふるさと広場	4月上旬～下旬	
源右衛門祭	源右衛門祭実行委員会	八千代総合運動公園	4月上旬	
五月祭	佐倉市	佐倉草ぶえの丘	5月上旬	
ローズフェスティバル	佐倉市	佐倉草ぶえの丘	5月中旬～6月上旬	
葛南再発見！まち歩きクイズラリー（県民の日葛南地域行事）	県民の日葛南地域実行委員会	新川周辺ほか	5月下旬～7月上旬	
風車のひまわりガーデン	佐倉市・佐倉市観光協会	佐倉ふるさと広場	7月上旬～下旬	
佐倉市民花火大会	佐倉市民花火大会実行委員会	佐倉ふるさと広場周辺・西印旛沼湖畔	8月上旬	
八千代ふるさと親子祭	八千代ふるさと親子祭実行委員会	県立八千代広域公園など	8月下旬	
印旛沼ダンボールイカダCUP	印旛沼ダンボールイカダCUP実行委員会	佐倉ふるさと広場周辺印旛沼	8月～9月	
佐倉の秋祭り	佐倉の秋祭り実行委員会	旧城下町新町通り	10月中旬	
佐倉コスモスフェスタ	佐倉市・佐倉市観光協会	佐倉ふるさと広場	10月上旬～下旬	
印旛沼クリーンウォーク	佐倉市	佐倉ふるさと広場	10月	
八千代どーんと祭	八千代どーんと祭実行委員会	八千代総合運動公園	10月下旬	
花見川区民まつり	花見川区民まつり実行委員会	花島公園	10月下旬	
佐倉・産業大博覧会	佐倉・産業大博覧会実行委員会	佐倉草ぶえの丘（予定）	11月中旬	
新川だヨ！全員集合	ミズベリング八千代	県立八千代広域公園	10月下旬	
ニューリバーロードレース in 八千代	ニューリバーロードレース in 八千代実行委員会	新川遊歩道、八千代市総合グラウンド等	12月中旬	
花見川カヤック体験	千葉市・ミズベリング花見川	花島公園	不定期開催	
花島公園「健康づくり」運動講習会	千葉市	花島公園	不定期開催	
花島公園自然観察会	千葉市	花島公園	不定期開催	

支援整備内容の概要（ハード整備）

1. 河川名
利根川水系 西印旛沼、新川・花見川（印旛放水路）
2. 整備範囲
西印旛沼（佐倉ふるさと広場周辺）、新川（県立八千代広域公園周辺）、花見川（花島公園周辺）
3. 整備内容
<p>前掲した基本方針に基づき、以下のハード整備を行う。</p> <p>西印旛沼及び印旛放水路において、親水施設や休憩機能、アクティビティの拠点機能を有する水辺を整備する。また、印旛沼・印旛放水路沿川の各拠点間の移動を促し、連続的・一体的な魅力向上を図るため、沿川に駐輪施設、共通のサインや案内看板を設置する。</p> <p>○水辺拠点整備 西印旛沼水辺拠点（佐倉ふるさと広場周辺）</p> <p>河川管理者（県）施工：親水護岸整備（水辺に近づくことができるスロープ・階段護岸） 推進主体（佐倉市）施工：親水デッキ、駐車場整備、観光交流拠点施設等の整備 サイクリングコース周辺整備（駐輪施設・案内看板設置等）</p> <p>○水辺拠点整備 印旛放水路（花見川）水辺拠点（花島公園周辺）</p> <p>河川管理者（県）施工：親水護岸整備（水辺に近づくことができるスロープ・階段護岸） 推進主体（千葉市）施工：船着場、艇庫、駐車場整備、飲食スペース等休憩施設整備 サイクリングコース周辺整備（駐輪施設・案内看板設置等）</p> <p>○水辺拠点整備 印旛放水路（新川）水辺拠点（県立八千代広域公園周辺）</p> <p>河川管理者（県）施工：親水護岸整備（水辺に近づくことができるスロープ・階段護岸） 推進主体（八千代市）施工：サイクリングコース周辺整備（駐輪施設・案内看板設置等）</p>

位置図



1. 整備内容名

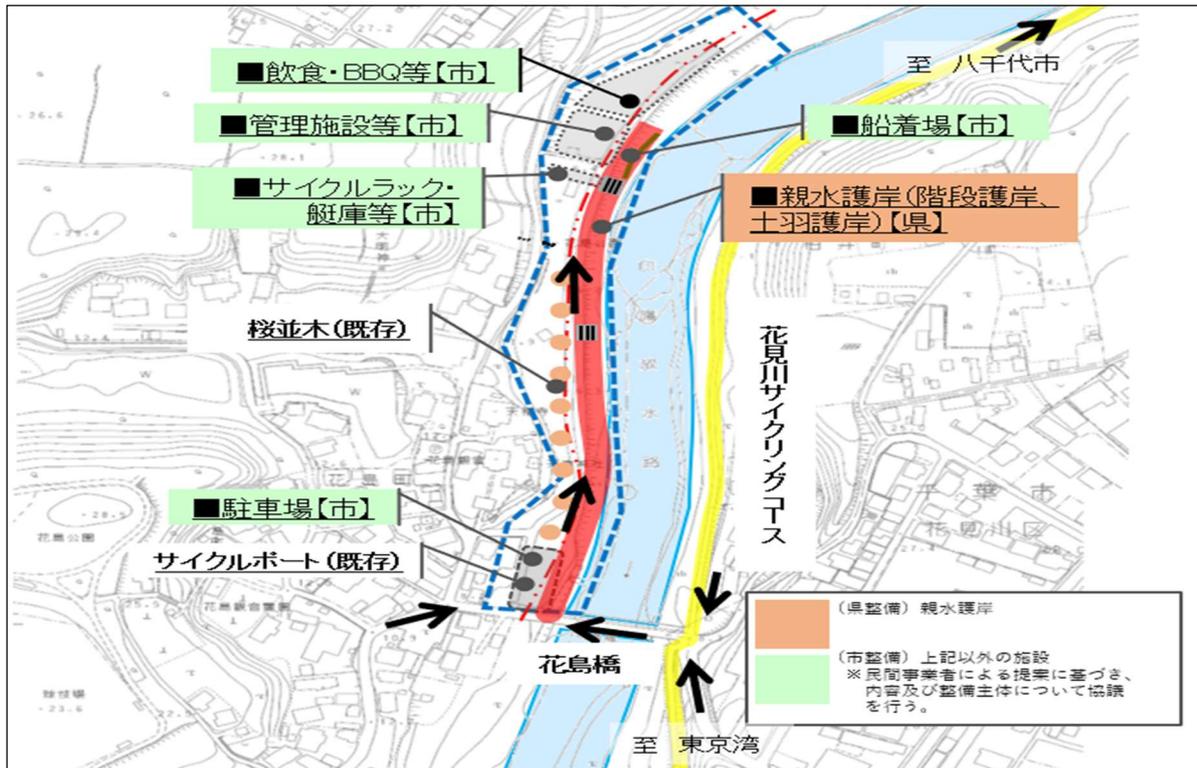
水辺拠点整備（西印旛沼：佐倉ふるさと広場、印旛放水路：花島公園、県立八千代広域公園）

2. 整備概要

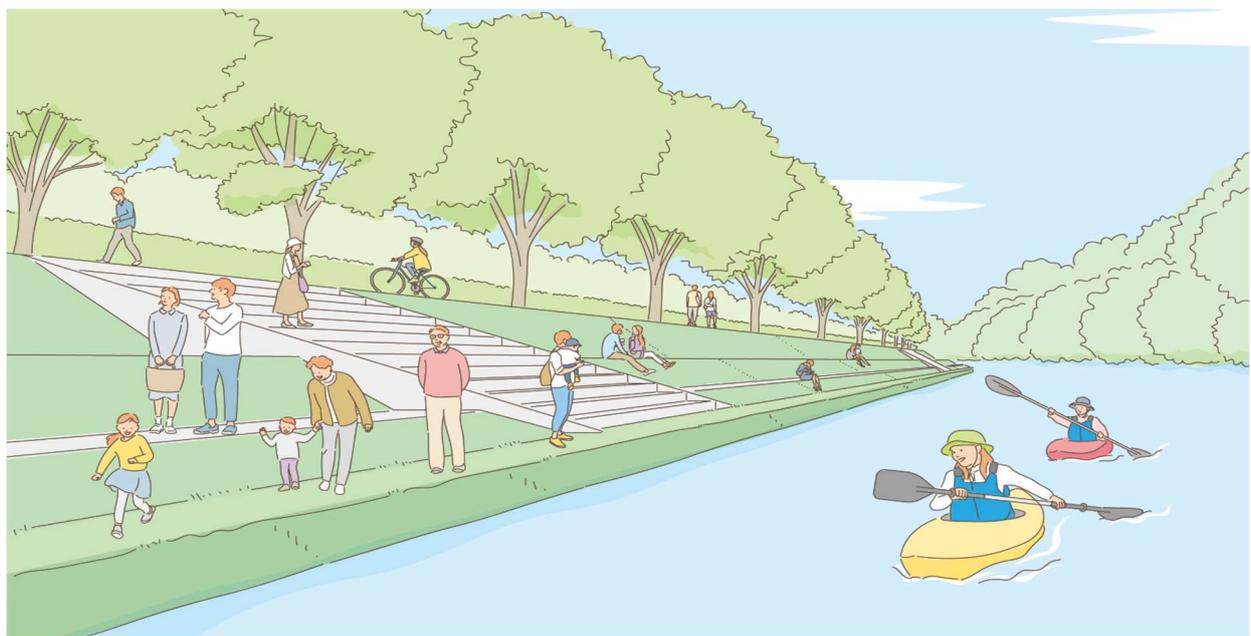
① 整備概要・イメージパース

<印旛放水路(花見川)水辺拠点花島公園周辺>

施設配置図



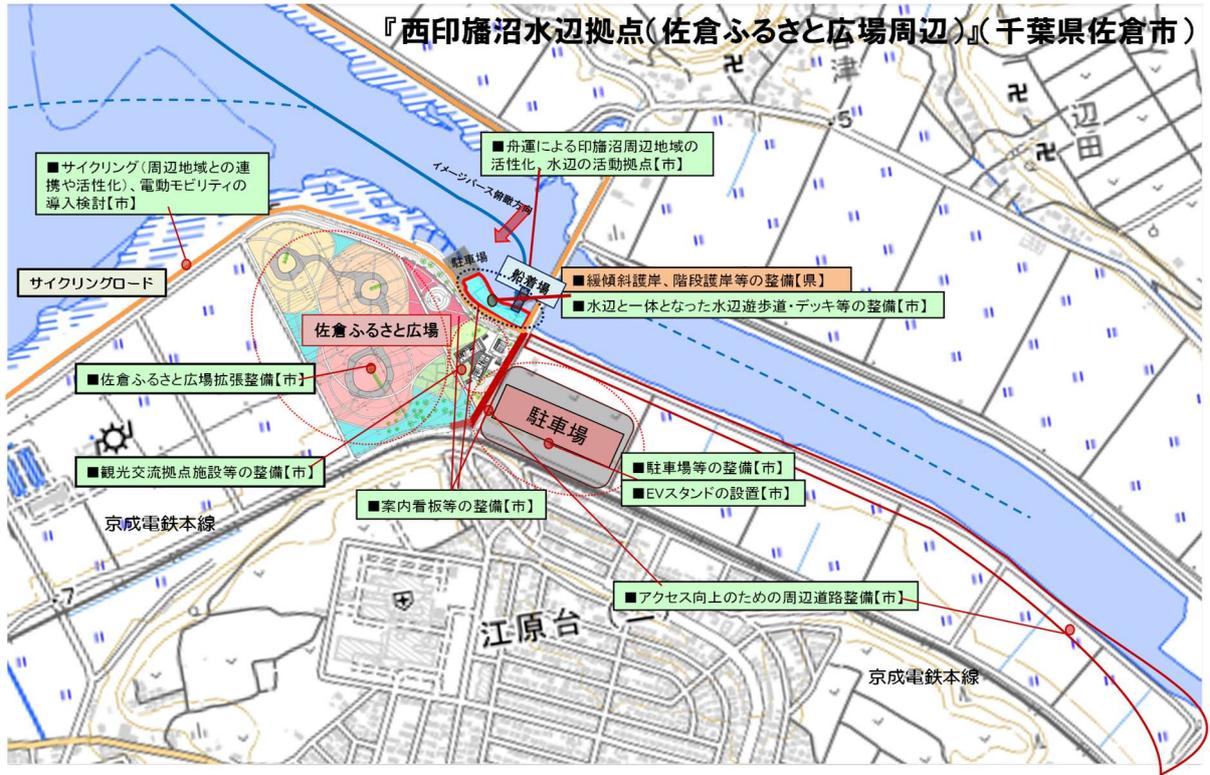
イメージ



※イメージパースであり、詳細を今後検討

<西印旛沼水辺拠点（佐倉ふるさと広場周辺）>

施設配置図



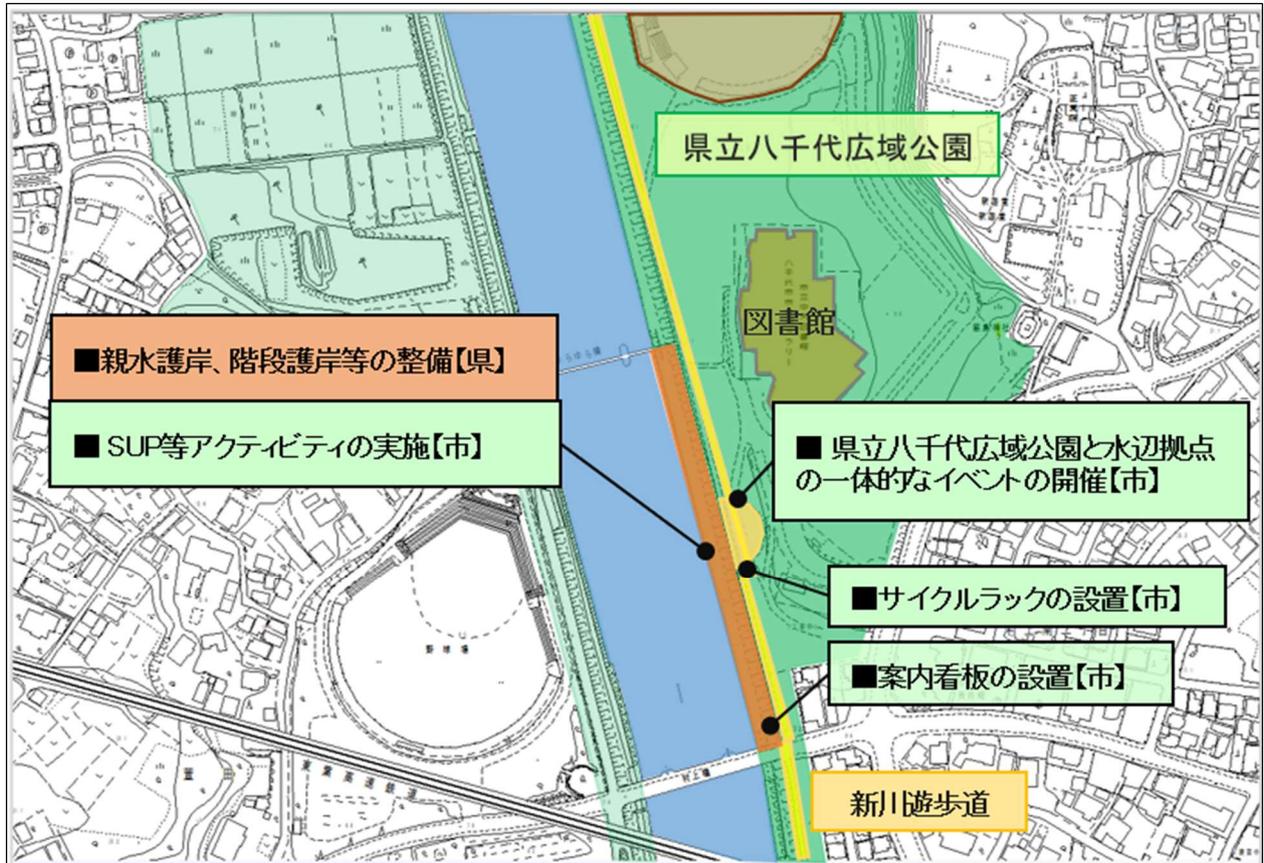
イメージ



※イメージパースであり、詳細を今後検討

<印旛放水路(新川)水辺拠点・県立八千代広域公園周辺>

施設配置図



イメージ



※イメージパースであり、詳細を今後検討

3. 整備の必要性、有効性

水辺拠点全体に関する事柄

沿川全体で水辺へアクセスできる空間が少なかった印旛沼・印旛放水路沿川において、親水護岸整備や、人が集える空間づくりを行うことにより、水辺へのアクセスポイントであり、またにぎわいを呼び込める空間となる水辺拠点を創出する。

<印旛放水路（花見川）水辺拠点（花島公園周辺）>

現在、策定中のちば・まち・ビジョン（都市計画区域の整備、開発及び保全の方針、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画）において、花見川の上流部に当たる当該エリアでは、「ありのままの自然を気軽に楽しめる空間づくり」を目指すこととしており、釣り、カヤック・カヌー、キャンプなどの自然を楽しむ空間の形成を行うこととしている。これらのコンセプトに沿った水辺拠点の整備を行うことにより、親水・利活用機能の向上を図る。

<西印旛沼水辺拠点（佐倉ふるさと広場周辺）>

「佐倉ふるさと広場」では、1期計画にて基盤整備及び施設整備（階段護岸の整備や駐車場等）を推進したが、年間を通じた集客や消費行動の促進などに課題があったことから、更なる拠点機能の強化を図るため、「佐倉ふるさと広場拡張整備基本計画」などにより拡張整備を行い、年間を通じた誘客、アクセスの向上、滞在時間の向上を図るほか、水辺拠点として、水が触れられるような空間、人が集まれる空間として、親水機能の向上を図る。

<印旛放水路（新川）水辺拠点（県立八千代広域公園周辺）>

八千代市第5次総合計画前期基本計画において、リーディングプロジェクトのひとつに「豊かな自然環境の保全と活用」を掲げており、その中で「新川及びその周辺を一体的に活用」することを位置付けている。水辺拠点を整備することにより、県立八千代広域公園における緑・スポーツ・情報文化と調和した水辺空間を形成するとともに、新川周辺を一体的に活用することで賑わいの創出を図る。

4. 整備の実現方策

河川管理者が親水護岸や坂路、階段等の基盤整備を実施し、市等が必要に応じて利活用促進のためのトイレ、ベンチ、看板、駐車場等の施設整備を実施する。双方の一体的な整備により、流域のネットワークと連携させた親水空間の創出を図ることができる。

水辺拠点の詳細な構造・上面整備は、地盤や周辺の状況、求められる機能等を踏まえる。

■整備工程

整備内容		事業主体	R5	R6	R7	R8	R9	R10
基盤整備	護岸、坂路、階段等	千葉県						
施設整備	高水敷（デッキ）、船着場、駐輪施設、ベンチ、案内看板、駐車場等	関連市						

5. 推進体制

千葉県と千葉市、佐倉市、八千代市ほか印旛沼流域市町及び、市民団体、有識者などで構成する、印旛沼流域水循環健全化会議水辺活用・連携部会において、関係者間の調整を図りつつ、ハード整備及びソフト施策を推進する。

6. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

拠点のハード整備を行い、またそれら拠点を既存のサイクリングロードなどのネットワークで周辺里山の自然環境、歴史・文化、地元農産物等の地域資源と結んでいくことで、『水と地域のネットワークづくり』を推進させる。

サイクリングロードは、市町村ごとに分割して利用するのではなく、統一的・連続的に利用されるものであることから、推進体制として記載の協議会で利用調整を図り、各市が連携して活用していく。

各拠点においてもそれぞれ以下のような有効利用を目指す。

<印旛放水路（花見川）水辺拠点（花島公園周辺）>

多くの自然が残る良好な自然環境を活かし、釣り、カヤック・カヌー、キャンプなどの水辺のアクティビティを、ありのままの自然を感じながら楽しむことのできる親水拠点。

<西印旛沼水辺拠点>

水辺を楽しむための水辺遊歩道及びデッキの整備等を行い、観光・交流機能を強化した佐倉ふるさと広場等と一体的に活用することで、印旛沼周辺地域の活性化策を図る水辺アクティビティの拠点。

西印旛沼（佐倉ふるさと広場周辺）から印旛放水路沿川方面へのサイクリングロードにおいて、水辺拠点の整備を行うほか、これまでの「かわまちづくり計画」で整備してきた一里塚等の機能強化を図り、サイクリングロード沿道における休憩施設や立寄施設の充実、看板や路面標示等の整備を図ることにより、サイクリング等による他地域からの来訪を促進する拠点。

<印旛放水路（新川）水辺拠点（県立八千代広域公園周辺）>

広域公園内に立地する八千代市総合グラウンドや八千代市立中央図書館・市民ギャラリーと連携し、スポーツ・情報文化と水辺空間の調和がとれた沿川活性化を推進する親水拠点。

②維持管理計画

以下の役割分担により維持管理を行う。

千葉県：階段やスロープなどの親水護岸等

関連市：高水敷（デッキ）、ベンチ、案内看板、駐輪施設、駐車場等

日常的な施設管理、清掃等については、印旛沼に関連する市民団体や民間企業等との連携を図る。

7. 特徴

印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画は、関係機関や利用者、事業者と連携を図りながら、新たな水辺親水空間を創出させるとともに、サイクリングやウォーキング等のアクティビティを組み合わせ、拠点間のネットワーク化、周辺の地域資源とのネットワーク化を推進することで、沿川利活用の促進に取り組み、また、流域を含めた水辺を活用した各種イベントや河川のオープン化制度等を活用した企業誘致等とおし、印旛沼・印旛放水路の水辺の魅力を伝える取組を推進することで、印旛沼・印旛放水路沿川全体のにぎわいを高めていく取組である。

計画の推進に当たっては、拠点整備等のハード整備を進めるとともに、印旛沼流域水循環健全化会議水辺活用・連携部会の中で、拠点の活用を含め、印旛沼・印旛放水路全体の水辺の利活用方策について、意見交換やフォローアップしながら強力に推進していく。

<プレイス・ブランディングについて>

- 東京湾から印旛沼周辺まで、千葉市、八千代市、佐倉市の3つの行政区間をまたぎながら、一つのラインでつながる印旛沼・印旛放水路周辺エリアを一つの場所（プレイス）として捉え、共通の名前を付け、民間企業、行政、市民など様々な関係者の垣根を超えた連携・協力のもと、コンセプトに沿った水辺に係る様々なコンテンツを生み出し、実施し、継続し、関係人口を増加させ、エリア一体として、全国に誇れるような新たな魅力を生み出し発信していく取組み。
- 沿川エリアに複数の住宅団地を所有するUR都市機構、関係行政機関、民間企業、民間団体が参加する官民連携ワーキングが、道の駅やちよなどを拠点に令和3年度から開催されており、エリアの魅力向上やブランド化を図るべく検討を開始している。



ワーキング風景①



ワーキング風景②

【ワーキング資料（参考）】

プレイス・ブランディング戦略シート

